

R1・12・16

第2号

通巻148号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷1486
TEL (0865) 42-3115
FAX (0865) 42-3114



聖蹟巡拝 (寂光院)

「させられる修行」から

「する修行」へ

金光学院長 高橋 寛志



前期後半を終え、学院修行も三分の二を終えた。暑かった夏も、今年から休養室にエアコンが入り、ある基準以上になった時には、エアコンも使用しながら乗り切ることができた。これから冬は、厳しい寒さの修行があるが、これも何とかおかげを頂いてほしい。学院修行は体力的にも厳しいところがある。

そして、学院修行においては人間関係が大きな修行である。全寮制で、一部屋には二人から三人が起居を共にする。常に誰かといふことは、ある意味緊張が解けない状態ということである。これはかなりのストレスである。その上、いろいろな人がいる。その中には、性格が合わない人もいるだろうし、そうしたストレスから体調を崩す人もいるかもしれない。そうした難儀をいかに受けていくか、いかに解決していくかが修行になるのである。

私は、その修行を、それによって修行させられる段階から、それをおかげにしていきたいために自らに修行を課していく段階に入っていたきたいと願っている。「させられる修行」と「する修行」があるといわれる。「させられる修行」は、病気や人間関係などで、まさにさせられる修行である。「する修行」は、ご祈念修行や参拝修行などの、自ら決めて自分に課していく修行である。その「する修行」によって、問題をおかげにしていけるのである。そして、ある先師は、「させられる修行は、する修行よりえらい」と言われている。だから、「させられる修行」の時は、「する修行」に取り組み余裕がないかもしれないが、そこを踏ん張って、自らに修行を課していくてもらいたい。それが、人を助けるための徳積み修行に繋がるのだと思う。そして、また、常平生に地を肥やす信心になつていくことでもあると思う。

前期を振り返って

学院次長 坂口 光正

五月十五日に緊張した面持ちで入学式を迎えて始まった学院生活も、七か月が経ちました。この度、十二月三日に後期を迎えさせて頂きましたことは、関係各位のお祈り添えあつてのことと、感謝申し上げます。

学院では、入学以来、奉仕、待命、炊事、洒掃といった御用を、それぞれが分担して取り組むことを信託としております。なかでも、奉仕の御用は、本部広前朝参拜にて、学院生を代表して、教主金光様の御取次を頂くことから始まります。そして、教主金光様の御姿に神習って、参拜や課業以外の時間は、一日、学院広前のお結界にて、結果奉仕に当たります。また、本部広前や学院広前でのご祈念の先唱を務めることや、夜御祈念時には教話を担当する



修徳殿障子張り

など、奉仕の御用は、学院生にとつて、最も緊張する御用と言えるのかもしれない。学院生の人数が少なくなつてまいりますと、必然

的に奉仕の御用に当たる頻度が多くなります。しかし、そのことは、取次者の養成が主たる目的である学院修行において、本部広前の修行生として、教祖様に神習う稽古を積み重ねることができるといふこととであります。

また、洒掃については、学院生の減少に伴い、本部の職員の協力も得て、洒掃範囲を見直しました。それでも、従来の時間枠では、特に学院敷地内の洒掃が追いつかないので、日課の中に、新たに洒掃に当たる時間を設けました。そして、それに伴って、学院生が、学院の日課の中で、主体的に修行に取り組む時間を確保するために、前期の課業の時間数も見直し、これまで授業や行事が入っていた昼食後から本部広前夕参拜までの時間を空けるようにいたしました。また、近年の夏の猛暑による影響も鑑み、午後に行っていた週に一度の「作業」の時間も、七月から九月までの夏本番の間は、暑さがピークに達する午後でなく、朝食後から一時限までの比較的涼しい時間帯に行うようにしました。

入学当初から、学院生が少ないことへの心配の声を頂いておりますが、前述のような工夫をしながら、前期の課程を修了させていただきました。人数に応じた多少の変更を加えてはおりますが、参



教祖特別講義

拝や御祈念、洒掃を中心とした日課は、昔と大きく変わっておりません。そうした意味では、本年度の学院生も、人数の多寡を問わない、創設以来、百二十五年の教師養成の願いの中に、ここまでお育て頂いてきたこと、たいへんありがたく感じております。

後期の実習や研修では、様々な出会いを経験することとなります。特に、一月十三日から始まる選択別研修では、「教会・布教」「青少年育成」「奉仕」「教学」の中から、各自が一つを選び、三週に亘って取り組みます。そのような研修での出会いを通して、前期で学んだことの意味を、魂の深いところで受け止め直し、今後の信心実践に生かすことがどれほど出ていくのか、そしてお道の御用を担う教師としての資質をどれほど養っているのか、そのことが求められています。

ここからも学院生の修行成就の上に、御祈念くださいますよう、お願い申し上げます。



立教160年生神金光大神大祭御用奉仕

日程

(冬期在籍教会実習まで)

12月	11月	10月	9月	8月
16 13 5 3	18 1 3	28 14 26 10 11	5 3 4	29
後期開始	第四回 求道の日	教祖生誕前夜奉祝行事参加 学院立教百六十年生神金光大神大祭 教学研究所見学	教話実習①	第三回 求道の日
第五回 求道の日	第二回 部屋替え	文化活動合同茶会 聖蹟巡拝(寂光院方面)	女子・修徳殿入殿	
創設記念式・直信教会参拝	第二回 定期考査		修徳殿障子張り	
第二信心レポート懇談			学院・秋季霊祭	
布教功労者報徳祭並びに金光山 神大道立別命百年祭御用奉仕			立教百六十年生神金光大神大祭御用奉仕	
修徳殿入殿				
冬期在籍教会実習				

「川」までの歩み

■聖蹟巡拝(吉備路・寂光院方面)

教祖の事蹟を訪ねること、また他宗教への理解を深めることを願いとして、九月十四日、吉備路方面の聖蹟巡拝を実施した。まず、才崎教会へ参拝し、教会長から直信・片岡次郎四郎師にまつわる「みきの信心」について教話を拝聴した。その後、教祖四十二歳の事蹟に関わる西大寺観音院・吉備津神社参拝に続いて、本



才崎教会

教と同じく幕末期に開かれた黒住教本部を訪れた。黒住教本部では本部神殿に参拝し、朝日を拝む「日拝」が行われる「日拝所」を拝観し、黒住教の教義についての説明を受けた。また、資料館において、貴重な資料の数々を黒住教の歴史についての説明を受けながら拝観した。

十一月十八日、大谷の檀那寺である寂光院、氏神である加茂八幡神社へ、それぞれ参拝した。寂光院では、お勤めの後、ご住職の法話を拝聴し、一人ひとりお焼香をあげて、川手家先祖、教祖の養父母の位牌に拝礼させていただいた。



吉備津神社



黒住教本部・日拝所

■学院秋季霊祭・生神金光大神大祭
本部広前のごひれいを受け、学院広前において、九月二十五日に秋季霊祭、十月十四日に立教百六十年生神金光大神大祭が執り行われた。

これらの祭典は、神様と学院霊舎に祀られる物故職員・学院生を合わせて二百二十一柱の霊神様のお働きを受け、ここまでの学院修行を進められてきたことへのお礼と真心を現す祭典として奉仕される。

祭典に臨むにあたり、祭員は、少しで



秋季霊祭(献饌行事)

も神様、霊様がお喜びくださる祭典を仕えられるように一か月ほど習礼に取り組み、実意丁寧な祭典を仕えさせていただいた。さらに、祭詞起草員は起草・浄書、調饌・祭事係は神饌物、紙垂の調饌と祭具の調整、楽人は奏楽、舞人は吉備舞等、初めての御用に戸惑う者もいたが、学院生全員で御用を分担し、今日までのお礼をお供えさせていただいた。

どこまで尽くせば神様、霊様への真心となるのかを求め、実意丁寧に取り組み続ける中で、それぞれ得るものがあつたようだ。御用を通し、それぞれが、生神



立教160年生神金光大神大祭(奉幣行事)

金光大神様、諸霊神様への思いを新たに
する機会となったのではないだろうか。

■第三・四・五回求道の日

学院生活の基本に立ち返り、自己の信
心を正していくことを願い、原則として
月の朔日を「求道の日」と定め、一日の
はじめに教主金光様のお出ましを迎えさ
せていただき、終日黒衣で過ごし、講話、
共励、覚筆写、徒步行等を実施している。
第三回は、覚筆写と、夏期在籍教会実
習の内容をもとにした個別懇談を行っ
た。第四回は、徒步行として、船着場で
ある沙美海岸から教祖広前へ到る参拝道



求道の日(金之神道)

であった「金乃神道」を歩き、当時参拝
された人々へ思いを巡らせた。また道中、
金光四神様の奥様である高瀬姫様のご生
家(安部家)にも立ち寄った。第五回は、
午前中、「回生の冒険者 崔宰漢」を鑑
賞し、午後からは、境内の洒掃をし、本
部広前で神習を三十分行った。

■文化活動合同茶会

十一月六日、学院広前において、文化
活動の合同茶会が行われた。合同茶会は、
前期を通して文化活動で習得してきた成
果を発表し、ほかの講師の先生方にも触
れ合い、ほかの文化活動に対する理解を
深めることを願いとしている。



文化活動合同茶会

書道は、信心の上で又は、今の学院生
活の中で個人が大切にしている言葉を色紙に
書いたものを展示し、華道は、直前に生
けた花々を並べ、会場を華やかに彩った。
典楽の奏楽では、様々な楽器が美しい音
色が響かせ、吉備舞でさらに観る楽しさ
を味わうことができた。茶道は、実際
にお点前を披露した。お菓子とお抹茶を頂
き、お抹茶の良い香りと和やかな雰囲気
に、美味しさも嬉しさも一入であった。

■創設記念日記念行事

十一月二十九日、学院の前身である神
道金光教会学問所が開かれて百二十五年
の創設記念日を迎えた。

午前八時から学院広前において、創設
記念式を執り行い、引き続き、記念行事
として、斎藤重右衛門師が開かれた笠岡
教会、佐藤範雄師が開かれた芸備教会、
高橋富枝師が開かれた六条院教会に巡参
した(参拝順)。各教会では、ご祈念の後、
教会長先生から、初代にまつわる教話を
拝聴し、道開きに尽力された直信の先生
方の信念に触れさせていただいた。
また、道中、教祖が厄晴れ祈願に参拝
し、また、教団設立においてもかかわり
のある沼名前神社にも参拝し、教祖をは
じめ、直信諸師へ思いを馳せる一日と
なった。



笠岡教会・教話拝聴



六条院教会・旧広前

■修徳殿入殿

本部広前の修養生としての自覚を深め、教主金光様の御取次をいただくことの意義を再確認する。そのことを通して、お道の教師にお引き立てを願う者としての自覚が深まることを願いとし、入殿を実施している。

第一回(九月)は、「教師志願の理由や、在籍教会・各家庭の信心の歩みをもとに、現在、どのような信心の流れの中にあるのかを確認する」との願いにより、年齢順に分かれた班編制で実施した。第二回(十二月)は、「前期に学んだことをもとに、本教の信心生活について求め合う」



女子修徳殿入殿(第1回)

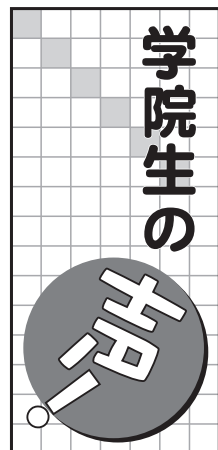
という願いのもと実施した。輔導、副輔導の教導をいただき、また修徳殿という場のはたらきの中で、それぞれに、ここまでの学院修行を振りかえり、ここからの課題等を確認できた。尚、来年三月には卒業後を見据えての、第三回入殿を実施する予定である。



教祖生誕奉祝行事



教学研究所見学



何事も「はい」と行じる



福岡県・小倉東部教会
丸山 孝明

私は学院入学前に在籍教会長から頂いた「何事も「はい」と行じなさい」というお言葉を実践課題に設定し取り組んできました。初めは神様の教え通りに行ってきた教祖様に神習って、私も「はい」と行じればよいと思っておりましたが、取り組みの中で様々な気付きと出会いました。価値観の違う相手の発言を無条件で飲むことに対して不満や苛立ちを抱え、不平不足となつて口から出ていました。その頃、同じく不平不足を發していた友人を見て、ふと「なぜ自分の意見が正しいと思っているのだろう」と、私自身の考えに疑問を抱いてから、とんとん拍子に私の価値観が変わってきました。人それぞれ育ってきた環境が違い出会ってきた人も違い、性格が違います。そして、これから先もずっと違う人生を歩ん

でいきます。おそらく、私とまったく同じ価値観の人と出会わないでしょう。まずは相手の意見を自身に落とし込み、「相手のことを理解する」という意味も込めて、教会長は、私にお言葉をくださったのだと思います。将来、取次者になる者として、相手に寄り添うために、我をなくしなさいと教えられている気がします。このお言葉を胸に、これからの信心生活を頑張っていきたいと思っています。

道を求める



岡山県・本部在籍
金光 彩乃

一年という長いようで短い学院生活も約半年が過ぎました。振り返ってみると、たくさんさんの時間を受動的に過ごしていたと反省させられます。ここ学院では、どれくらい能動的に行動できるかが大切だということに気付くまでとても時間がかかりました。学院にはたくさん学べる機会があり、いろいろな考えを持つ同期がいます。ただ話を聞くだけ、言われたままをするのではなく、「何でこの動きをやるのだろう」「どうしてこうなるのだろう」と考え、自ら行動することによって、神様に向かう気持ちが変わり、今まで以

上にありがたく感じられるようになりました。

私は、毎日一つ、小さな目標を決め、取り組ませていただいています。目標に向かって取り組むことがきっかけになり、今まで忘れていたありがたさに改めて気付きました。少しずつですが前向きな信心ができるようになりました。一人ではできないこともたくさんあります。あいよかけよで同期たちと残りの時間を修行に費やし、後期ではさらにいろいろなことに取り組んでいきたいと思っています。

おすがりすること



岡山県・児島赤崎教会
藤井 孝悦

ここまで半年間学院での修行をさせていただき、いろいろと起きてくる事柄を通して、感じさせられたことがたくさんありました。そのなかで、私は「自分の無力さ」というものを特に強く感じさせられました。毎日信心の稽古に取り組み中でうまくいかないこと、具体的には「何事にもお礼をする」「丁寧に御用をする」「良い御祈念をする」などを意識するのですが、なかなかできません。また学院生活の中で苦しんでいる人の助けに

なれません。そのようなときに「まだ自分が祈っている。常に金光様のお手続きをもって願え」という父の言葉を思い出し、これだと思いました。どんな時も金光様におすがりし、私の願いを神様に届けて頂く。どんな場所でもそのような意識を持って願いました。そして助かるおかげを頂きました。「無力である」と自覚することで、金光様におすがりすることができ、安心して信心の稽古をさせて頂いています。これから躓くこともあると思います。ですが、常に金光様におすがりし、神様を信じるということを忘れず、信心の稽古を進めさせて頂きたいと思っています。

自主的な取り組み

学院では、日々の修行に加えて、学院生が願いを立てて様々な自主的な取り組みを行っている。

入学当初に植えた芋を学院生が育て、十月末に収穫を行い、洒掃奉仕で集めた落ち葉でたき火をし、焼き芋を作った。皆焼き芋の甘い香りとほくほくとした口あたりに、天地の恵みのありがたさを実感していた。

他にも、自主的な取り組みとして、学

院内施設や本部境内地の洒掃奉仕などを行っている。



自主活動(焼き芋)



自主活動(芋掘り)



教話実習